

論文審査の結果の要旨

氏名：金井孝司

専攻分野の名称：博士（医学）

論文題名：シロリムス溶出性ステント留置後の冠動脈黄色プラークの変化とその規定因子に関する研究

Serial change and its determinants of residual plaque characteristics under sirolimus-eluting stent: A coronary angioscopic study.

審査委員：（主査） 教授 長尾 建

（副査） 教授 久代 登志男 教授 塩野 元美

教授 相馬 正義

20 世紀、最も進歩した心血管治療は虚血性心疾患に対する冠血管インターベンションと高脂血症に対する HMG 還元酵素阻害薬（スタチン）が挙げられる。冠血管インターベンションでは、冠動脈平滑筋細胞の増殖を抑制し再狭窄を予防する薬剤溶出性ステントの使用が著増している。しかし、留置後にステント血栓症を引き起こす危険性が報告された。

そこで、金井らは、冠動脈内視鏡検査を用いてシロリムス溶出性ステント（SES）留置部直下の残存黄色プラーク黄色度の変化の規定因子とスタチンの効果を知る目的で、日本大学医学部附属板橋病院の臨床研究倫理委員会の承認後に本臨床研究を行った。対象は、1. 安定狭心症ないし無症候性虚血性心疾患、2. 新規冠動脈有意狭窄病変（アメリカ心臓病学会分類 75%以上の狭窄病変）に対し SES を合併症なく留置できた例、3. SES 留置時と追跡時（Follow-up；留置から 9-14 か月後）に冠動脈造影と冠動脈内視鏡検査を施行した例、を全て満たした 42 例とした。

検討項目は、SES 留置時と Follow-up 時の内視鏡的黄色度を評価し、3 群（黄色プラーク増悪群 15 例、変化なし群 16 例および改善群 11 例）に分類し、その変化規定因子とスタチンの効果を比較した。結果、Follow-up 時の LDL-コレステロール値は、改善群（ $74.3 \pm 16.7 \text{mg/dl}$ ）が留置時に比し有意に低下、また Follow-up 時の LDL-C 値は、改善群が変化なし群（ $105.7 \pm 18.7 \text{mg/dl}$ ）と増悪群（ $103.5 \pm 16.4 \text{mg/dl}$ ）に比し有意に低値であった。SES 留置直下の残存黄色プラーク内視鏡的黄色度変化度に対する多変量解析では家族歴、スタチンの内服の有無、留置時の血清クレアチニン値、留置時のステント内血栓の検出の有無、Follow-up 時 LDL-C 値が規定因子であった（ $R^2=0.72871$, $p<0.0001$ ）。以上より、SES 留置術後のステント下の残存黄色プラークの安定化を図るには、スタチンによる積極的脂質低下療法を行い LDL-C 値を管理することが重要であると結論した。

尚、金井氏は、本研究を J Cardiology Journal of Cardiology（インパクトスコア 2.298）に筆頭著者・原著論文として報告した。

よって本論文は、博士（医学）の学位を授与されるに値するものと認められる。

以 上

平成 年 月 日